

【発表概要】

ちば千産技術（4技術）

題 名	概 要	発 表 者
ちば千産技術①【R01C-1-1】 高い中性化抑制をもつ、コンクリート表面 含浸材 「セラグシターールPRO」	含浸材塗布の1工程ですみ、散水養生等も不要と施工性が非常に高く、かつ、安価に施工できる。本材料は、完全無機ガラス材料なので、改質効果は長期にわたり持続する。新設コンクリートだけでなく、既設コンクリートへの施工も可能であり、本材料による表層部緻密化は予防保全や補修工事にも効果的である。	(有)タートル (香取市)
ちば千産技術②【R01C-1-2】 渦流制御式流出量抑制装置 「ボルテックスバルブ」	本製品は、雨水貯留施設等の流出口に装着される流量制御装置である。取水口から渦流形成室に進入した水流は、取水側の水位が一定以上になると旋回して渦流となり、発生した渦流の中心には柱状の空気核（エア・シャフト）が形成され、この空気柱が流出口の有効断面を減じ、流出量が抑制される。電力を必要とせず、雨水貯留施設の容量低減や貯留機能の向上が可能となる。	ゼニス羽田(株) (千葉工場 山武郡横芝光町)
ちば千産技術③【R01C-1-3】 集水能力および安全性を向上させたコンクリート蓋 「FX側溝 スリット蓋」	本製品は、道路側溝用コンクリート蓋の手掛け部分を、センタースリット及びサイドスリットに変えることにより集水能力が向上し、センタースリットを10mmにすることにより車椅子・ベビーカーの車輪幅に配慮した形状としている。	関東FX工業会 (千葉市)
ちば千産技術④【R01C-1-4】 拡幅鋼製地覆 「フリッジプラスアルファ（歩道タイプ）」	本製品は、工場で製造した橋梁拡幅用鋼製地覆であり、歩道幅員を1m以上拡幅することが可能である。橋梁本体に補強が不要なため、コスト縮減が図れ、工場製品のため品質が確保でき、現場作業日数が少ないため工期の短縮が図れる。	(株)シラヤマ (千葉工場 白井市)

新技術（7技術）

題 名	概 要	発 表 者
新技術①【R01S-1-1】 道路のひび割れ抑制シート 「グラスグリッド」	本製品は、道路のひび割れ（クラック）の発生を抑制するシート状の素材で、アスファルト表層の下に敷設することでひび割れの発生を遅延させることができるため、道路の長寿命化に貢献でき、道路のメンテナンスにかかる費用を抑制することができる。	(株)アークノハラ
新技術②【R01S-1-2】 表面保護・剥落防止工 「ボンド キープメンテ工法VMクリア」	下地の視認性を有する透明な塗膜により、維持管理の負担を低減する表面保護及び剥落防止工法。施工性においても、氷点下環境（-5℃以上）で施工可能、且つネットを使用せず樹脂を塗布するだけで剥落防止性能を発揮し、また、工程数も2工程で、最短1日施工が可能である為、補修コストを縮減できる。	コニシ(株)
新技術③【R01S-1-3】 リフレクションクラック抑制バインダ 「ノンクラックファルト」	本製品は、高いクラック貫通抵抗性と疲労抵抗性を有するひびわれ抑制に特化したプレミックスタイプのポリマー改質アスファルトである。一般的なポリマー改質アスファルトを用いた混合物と同様な施工が可能であり、薄層舗装にも適用可能である。	二チレキ(株)
新技術④【R01S-1-4】 「土留部材引抜同時充填注入工法」	民家や地下埋設物などの重要構造物に近接した箇所においては、土留め杭引抜時に周辺地盤に大きな影響が発生するため、土留め杭をそのまま残置していたが、本工法では、引抜きによって発生する空隙に対して、予め設置しておいた充填管より引抜きをしながら充填材を同時充填することによって、地盤変位を高度に抑制し、安心して土留材の引抜きが可能である。	土留部材引抜同時充填工法研究会
新技術⑤【R01S-1-5】 つる性雑草侵入防止工法 「つるガード工法」	本工法は、表面平滑性の高いシートを敷設、転落防止柵に絡みつきを防止するネットを設置することで、つる性雑草類による法面への登攀や歩道への侵入、転落防止柵等への絡みつきを長期間防止できる。従来の機械除草が不要となり、歩道利用者の転倒リスクや事故に遭うリスクが軽減され、安全性や景観性の向上に繋がる。	(株)白崎コーポレーション
新技術⑥【R01S-1-6】 点検が容易で補修・補強が可能な補強土壁 「テールアルメFS」	補強土壁（テールアルメ）の維持管理を容易に行えるフェイルセーフ機能を持った壁面材を使用する製品。壁面の外観から直接目視によって変状を確認出来る機能を持った壁面材で、補強材の連結部にフェイルセーフ機能を持つ、2種類の連結金具を使用する事で、異状があった場合の調査と対策に十分な時間をかけて、補修方法の検討と処置が可能である。	JFE商事テールワン(株)
新技術⑦【R01S-1-7】 インフラ監視クラウドシステム 「OKIPPA（オキッパ）」	本技術は、自営の基地局や配線を整備せず、センサボックスを設置するだけで傾斜監視できるシステムで、従来は特定小電力無線による傾斜監視システムで対応していたが、本技術の活用により、省電力の広域無線通信(LPWA)を経由するため、コスト縮減及び省力化が期待できる。	西松建設(株)